

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/チューリップ)

事業所番号	2794000600		
法人名	社会福祉法人 香聖会		
事業所名	グループホーム宙(すばる)豊中		
所在地	豊中市永楽荘4-1-3		
自己評価作成日	令和4年2月19日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員への研修を重視し、知識の向上を目指しご利用者様へのサービスをより良い物とすることに力を入れております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は社会福祉法人で、地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ、在宅サービス、グループホームが同一建物内にあることから、利用者・家族の要望に適した施設案内や、各施設の職員で構成する委員会(事故報告、感染対策、行事開催、研修など)による連携した運営をしている。法人理念を全ての施設が共有しており、幸福の追求と六方(自分・家族・知人・社会・国・宇宙)笑顔の創造で社会への貢献を目指している。当事業所は建物の4階フロアに開設7年になるが、職員の殆どは介護福祉士の有資格者で、毎月の研修の受講で利用者サービスの質向上に繋げている。また、積極的なICTの導入により利用者の就寝時の呼吸や心拍数を把握し安眠と排泄誘導の精度を向上する対応や、2か月毎に家族に送る「便り」(個々の写真とメッセージを掲載)は好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理事長が2020年6月に変更となり、事業所理念として「全従業員の物心両面の幸福の追求と福祉と教育を通じて六方笑顔を創造し社会の成長発展に貢献する」に変更となったため、職員の周知に力を入れている。	事業所理念は法人理念と同じ内容であるが、毎年目標を事業所独自で掲げ職員に徹底している。理念は各ユニットの入り口の目立つ場所に掲示しているほか職員採用時の面談や給料支給日の挨拶文に理念を記載し全職員への意識づけをしている。また、施設案内パンフレットにも掲載し家族などにも広く周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は運営推進会議に民生委員などに出席して頂いており、関係を築いていた。現在は地域の集まりに参加を可能な範囲で実施している。	玄関入り口の地域交流スペースを活用し、行事開催時には地域住民を招いたり、地域への場所の提供などで交流を図るほか、市を通じてボランティア人材の受け入れを行っていたが、現在はコロナ禍で自粛している。自治会とは会議案内の際には積極的に参加し、地域情報の把握と関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は施設一階の交流スペースを開放し、地域の催しに使って頂いたり、施設催しに地域の方へ参加して頂いていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方に当ホームを理解して頂き、また意見を頂いていた。	会議は、併設施設と合同で2か月毎(奇数月)に開催している。メンバーは地域包括支援センター職員、民生委員、町内会代表、入居者・家族、施設長及び事業所職員が参加し、入居状況、事故報告、行事や職員研修の開催などを報告した後話し合っている。コロナ禍では書面会議(令和3年3月以降)で開催している。	コロナ感染防止を優先し、書面会議の開催が続いているため会議の形骸化が懸念される。書面会議における積極的な意見の聴取方法を始め、対面会議開催に向けた参加メンバーの構成、会議録公表方法など運営方法を再点検し、事業所運営に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所希望者や見学者について紹介を頂いたり、運営についてのご指導を頂いている。	豊中市の長寿社会政策課とは、日頃から必要書類の提出を始め、介護制度改定の際には詳細の確認を行うとともに、事業所運営の状況報告に努めている。平成30年から「とよなか地域ささえ愛ポイント事業」や、年2回開催される福祉関連事業者連絡会議に参加し福祉関連情報を収集し、事業所運営に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束適正化の指針を作成し、毎月身体拘束廃止委員会を開催している。年2回開催する研修会には、事故防止及び虐待防止の研修と同時に開催し、日常の実践に繋げている。エレベータは利用者の安全を第一に暗証番号で開くようにしているが、同一フロアにあるユニット間は自由に行き来することができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修などから、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待の無い介護に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所申し込み時、家族や関係者に説明をおこなっている。また、職員には入職時の研修にて説明を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書・重要事項説明書をご家族へ説明し、ご不明な点等を確認・説明した後に契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍後は面会も制限しており、日々定期的に電話やメールにてご入居者様の報告やご意見を伺っている。また、半年に一回家族会を開催し(オンライン開催にて現在は実施)、ご意見を伺う場を設けている。	利用者・家族からは、面会時また半年に1回開催する家族会などで意見・要望を把握している。コロナ禍では面会を自粛しているが、月に最低1回(毎日している例もある)の電話やメール送信の際に把握に努めている。把握した内容は職員間で情報共有しており、オンラインの面会や利用者の差し入れ要望に応えた例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は職員との面談を実施し、意見を聞くようにしている。また、管理者出勤時に出勤職員に声をかけるようにしている。	管理者は、毎月開催するフロア会議やユニット会議のほか日常的に職員に声掛けし、意見・要望の把握に努めている。入浴介助の方法など利用者のケアに関する提案や職員補充に対する要望が多いが利用者のサービス向上に繋がるかを判断基準に持ち、法人とも調整して可能な限り反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与にて、職員の実績を評価し、向上心をもって働いてもらえるよう、話しをする時間を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・外部研修への参加機会を確保している。それとは別に、管理者が定期的に勉強会を開催し、知識習得の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域が主催する研修や会合に極力参加するように心掛けており、その際に交流をするようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様へのご挨拶をし、ご入居に納得されてない方であれば、納得されるまで入居を見合わせる。入居直後は特に厚く関わるよう職員へ指示を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	既存の方でも同じだが、入居後のご様子を必ず電話・メールにて報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学やご相談の際に、その方がグループホームの施設形態へのご入居が適正化を踏まえ、他サービスも含めた上で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時のご本人のご希望やご要望を伺い、入居前の生活と大きく変化がないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍前は家族などの来訪された時は、居室ばかりにおらず、リビングで他の利用者や職員と共に過ごして頂く様努めている。今現在直接面会は実施していないが、リモート面会の案内を全ご家族に行い、機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前は親族以外の方でも、気軽にご訪問できるようにご入居時にご説明をし、ご本人さまとお会いできるよう努めていた。	現在、コロナ禍で、馴染みの場所への同行や馴染みの人との面会や外出を自粛しているが、電話の取次ぎや、同一建物内の施設を利用している馴染みの人への付き添い、また、施設内に鳥居を作り初詣気分を味わう工夫など、出来る範囲で馴染みの関係の継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当施設は横並びにユニットがあり、気のあった人同士が行き来している。また、イベント開催時は合同で参加している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望頂いた際は、御退去後でも相談に応じさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のなかで何気ない言動にしっかり耳を傾ける様に意識し、ご本人様からの聞き取りが困難な場合は、ご家族様・ご友人様よりお話を伺います。	入居時や日々のかかわりの中から声掛けし、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者は、声掛け時の顔の表情や態度を見逃さないようにするほか、家族に都度連絡し把握に努めている。把握した内容は職員間で話し合い、申し送りシートなどで情報共有するとともに、介護計画見直しの時に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談にて、本人・ご家族から生活歴や様々な話を伺う様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録を取り、個別対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員や往診医からその方のご様子を聞き、介護計画を作成するよう心掛ける。	入居時に、利用者・家族から生活歴や意向・要望を詳細に把握し、医師からの助言を得て、長期1年、短期半年の介護計画を作成し、家族の同意を得ている。モニタリングは毎月行っており、3か月毎にパソコンデータに反映している。利用者の状態変化や家族からの要望があれば都度サービス内容に反映し、日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、個別対応を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のご希望に応じて、様々なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括主催のイベント等に出席を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に往診医を選択できるよう案内しており、御本人・ご家族のニーズに応えられるようにしている。	協力医院から2週間に1回訪問診療があり、歯科も週1回訪問診療を受けている。外来受診は、家族同行を基本にしているが緊急時には職員が対応している。併設する施設の看護師による週1回の定期的な健康管理を行っており、安心できる体制を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には入居者の状態の観察をさせ、医療的な意見を聞けるようにしている。また、定期的に健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には定期的に面会に行き、利用者様の状態把握に努め、家族様の相談にのるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される前に、当ホームでの、できる範囲のことは家族様に説明させて頂いている。重度化した場合には、再度、家族様や病院関係者と話し合いをしている	入居時に看取り介護の具体的支援を記した「重度化及び看取りに関する指針」を説明し、利用者・家族の意向を確認し同意を得ている。重度化した場合は、改めて対応方針を説明し家族との同意書を交わしている。終末期に関する職員研修を看護師が年1回開いている。看取り経験が直近で1例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備しており、すべての職員が実践できるよう努めている。また緊急対応の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は、年2回行っている。今後、自治会に協力をお願いしていこうと思っている。	年2回（夜間想定を含む）併設の施設と合同で避難訓練を行っている。併設の3施設と職員同士の協力体制は築いている。職員も直ぐに駆け付けることができ連絡網が整備されている。備蓄は厨房施設に1週間から10日分の食料があり十分な対策が取られている。水や常温で食べられる食品も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際は必ずノックをするよう、職員1人ひとりがよく注意し、対応している	年1回コンプライアンスと接遇について職員全員参加の研修会を開いている。排泄時は「用事を済ませましょう」と小声で誘導したり、入室時はノックをするなど周辺に気を付けて声掛けをしている。不適切な対応があったときは管理者からその都度注意を促し利用者のプライバシーを守りながら接している。重要書類や個人情報は事務所の鍵付きの書庫に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞くことを大切にし、利用者様が、ゆっくり思いが話せる様導き、納得できる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・昼寝・レクリエーションなど、利用者様1人ひとりのペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るか本人に聞きながら、対応している。理美容時に御本人に希望を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嗜好には配慮している。定期的に外食レクを実施し、お好きな物を召しあがる機会を設けている。準備や片付けが可能な方にはテーブル拭きや食器洗いをお手伝いして頂いている。	管理栄養士が作成した献立表により、併設の厨房で調理した食事を職員が配膳の用意をして提供している。利用者も一緒にテーブル拭きや食器の後片付けをしている。誕生日ケーキのテイクアウトやおやつレクリエーションとしてたこ焼き・ホットケーキ・スイートポテト作りで楽しんでいる。コロナ収束後は外食機会を提供したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算のもと、献立・調理している。食事量・水分量は時間・量を記録し、少量の場合は補食して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。お一人で実施が難しい方には職員が介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力に合わせて、お声掛けやトイレへの誘導や、排泄のお手伝いを実施している。	ひとり一人の排泄パターンを把握して、出来るだけトイレでの排泄を基本に心掛けている。年1回業者からオムツの正しい使い方やつけ方の研修があり利用者に適した使い方の指導を受けている。夜間はICTを活用して睡眠状況や心拍数・呼吸数の観察が可能で、状況を把握しながらおむつ交換やトイレ誘導を行い、安眠を重視した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便も記録し、便秘の方へは、水分を多くとっていただくよう促したり、必要であれば往診医へ相談を実施する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回入浴できるよう曜日を設定している。	入浴は週2回を基本としている。入浴を拒否する利用者へは翌日にしたり職員を変えたりして対応している。重度化の利用者には機械浴を利用するなど利用者や職員が安心安全な形で支援することができるように努めている。一人ずつ湯の交換をし、ゆず湯など季節湯を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応しており、眠れない場合などはお話しし、リラックスして頂ける様にしている。必要であれば、往診医へ相談し眠剤の処方も検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は往診記録に残すようにしており、職員へ確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、食器洗いを毎日して頂いたり、毎日の体操を楽しみされている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によっては、散歩を取り入れている。花見・遠足などにいたり、外食などの希望がある場合は、できるだけ対応しており、家族様にもご協力頂いている	コロナ禍のため外出は難しく、通院だけが外出になっている。外出ができないために施設内で職員が神社の鳥居を作り初詣気分を味わったり、家族とズームやオンラインでの面会や体操の時間を取って体を動かすことに努めている。コロナ収束後は寿司屋・和食の店・コーヒーショップなどへの外出支援を考えている。	外出支援は五感への刺激や認知症予防の為に必要である。家族の了解のもと、施設の玄関前や感染リスクを抑えて人通りの少ない時間等を見計らって短時間でも外出支援が出来るように職員間で話し合い対応することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は施設として、原則お断りしている。極少数の方がお金をお持ちであるが、ご家族に紛失時の対応はしかねるとご説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった時には、電話を取り次いだり、年賀状・暑中見舞などを書いて頂いている。数名の方は携帯電話を所持し、居室で使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った装飾を随時行い、季節を感じてもらえる様にしている。日中は太陽の光が入りやすく、明るいフロアであり、温度や湿度にも配慮している。	共用空間は、テレビ・加湿器・洗面台・大きな鏡が置かれており、広くゆったりとした空間になっている。また、壁面にはチューリップの折り紙を飾り季節感を感じることができる。室温や湿度が適切に保たれ、清掃は職員が行うなど、利用者が過ごし易い環境づくりと清潔の保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・椅子にて、1人または気の合った人同士で過ごして頂けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に家族様と話しをし、利用者様に安心して暮らして頂けるよう工夫している	居室は、ベッド・洗面台・大きな鏡・タンス・ハンガー掛けが備え付けで、利用者は、居室に思い出の家族写真・テレビ・小さな仏壇・縫いぐるみなどを持ち込みこれまでの生活の継続となるように支援している。清掃は職員が行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレには、大きく表札をあげ、わかりやすくしている		